

腹は減る減る・・・

高知県甲浦紀行

瀬田康司

高知県安芸郡東洋町甲浦（こうちけんあきぐんとうようちょうかんのうら）。高知県の東端、徳島県境に位置する小さな漁村である。同時に、海水浴場として夏場はにぎわう。この地は土佐日記にも登場するなど、歴史は古い。そして・・・。

第一幕

某年6月21日午前7時自宅を出る。朝の時間ゆえ、交通機関の混乱が起こりうることを予定して、30分ほどゆとりをもっていた。駅に着くとホームは大混乱。構内放送が「千代田線沿線で人身事故が発生したために、ダイヤが大幅に乱れております。ガーガー」。ぼくの「足」は、まず柏に出て、柏から上野へ、上野から浜松町へ、浜松町から羽田第1ビルへ、そして日本航空カウンターへ、という「流れ」になっているのだが、さっそく柏に出る「足」でつまずいた。この旅、どういう旅になるのかなあ。嫌でも考えてしまう事態との遭遇である。電車が来てもとても乗れる状態ではない。閉所恐怖症、圧迫不安症によって車内で倒れては意味はない。とにかく1台目を見送り、「車内人口密度」を探り次の乗車の立ち位置を見定める・・・

朝、出かけにトーストを半切れ口に入れたきり。羽田空港で朝食をと思ったが、どの店も人の行列で並ぶのが億劫になった。徳島空港に降り立って、さて食事と思ったが、リムジンバスがすぐ出る、その後は2時間後、というアナウンスであわててバスに飛び乗った。日本全国都道府県県庁所在地で立ち寄ったことのないのが、ここ徳島市のみ、とあって、JR切符を買う窓口をきょろきょろと探す。食事は切符を買ってから、としたのだ。あらかじめ作成しておいたスケジュール表を窓口のおねーさんに見せて、「甲浦まで、ここで買えますか?」。甲浦にはJRが通じていないための質問だ。「通しで買えますよ。」「では、一枚ください。」「発車時間まで後3分、乗り場は3番で階段を上ります。」「次は?」「2時間後です、これにお乗りください。」

歩いていても気が急ぐ時には呼吸困難に陥るといふのになあ、ブツブツ……。とにかく階段を急いで上り、当然急いで下り、間一髪・・・というより、車掌（運転手）さんがドアを閉めるのを待ってくれていた・・・、間に合った。

んーっと、この電車、ワンマンカーだなー。

んーっと、この電車、車内販売、ないよなー。

どこか、停まった駅で、売店で、パンとジュースでも買うしかないか。

・・・が、停まれども停まれども、人影もなし、自動販売機もなし、当然売店もなし。

腹へーったー——————っ。

この電車が走っているのは「牟岐」線。なんて読むんだー。

そんなこんなで煩悶しながら車窓の外を見つめて時を過ごす。ローカルだなー。先週乗った山口線以上にローカルだなー。電車は徳島から 24 駅目「牟岐」でしばしの時間停車、いや、乗り換え。やっと、ムギ、と読むことがわかってほっとしたが、心の底から当てにしていた売店はなし。

牟岐駅で 20 分近く停車して発車、4 駅目の「海部」。車掌がにこやかに、ただ一人の乗客の肩を叩き、「終点」を告げる。うそー。間違えたの？乗る路線、間違えたの？いつも乗っている山手線や常磐線は路線地図が車内にある。しかし、今下ろされかかっている電車にはそのような丁寧、親切な案内はない。ホームを見るとやはり無人で、いわゆる駅舎などはない。

「あの一、甲浦に行きたいんですけど おずおず。」

「阿佐海岸鉄道に乗換えだよ きっぱり。」

乗り換えって言われても、阿佐海岸鉄道なる路線らしき駅舎はない！見渡してもない！見渡してあるのは、向こうとこっちとそっちの山と、高架駅眼下の田んぼ、そして山裾の人家人家。どこにあるっちゅんじゃー。

「ホーム端の階段を下りていくと部落のほうに行くからだめだよ。ホーム端の踏切を渡って、ほら、向こうにホームがあるでしょ、あれ。わかった？おじいちゃん。」

なるほど。おじいちゃんは余計だが、今乗ってきた電車が終点で、対面ホームに停まっている電車が始発か。

たった二駅で最終目的駅甲浦着。時計は午後 4 時少しを指していた。自宅を出てから 9 時間。腹減ったー。駅前でラーメンを食べるぞ——————！！！！！！



田んぼの向こうに聳える(?)スキー場のジャンプ台のような建築物。それが甲浦駅なのである。

徳島から甲浦まで、駅名、ぜんぶここに書いておく。腹の足しになることなら何でもやる(腹減ったという気を逸らすこと)という証拠だからね。

徳島－阿波富田－二軒屋－文化の森－地蔵橋－中田－南小松島－阿波赤石－立江－羽ノ浦－西原－阿波中島－阿南－見能林－阿波橋－桑野－新野－阿波福井－由岐－木岐－北河内－日和佐－山河内－辺川－牟岐－鯖瀬－浅川－阿波海南－海部－宍喰－甲浦

第二幕

甲浦駅を降り立ち、田んぼの中の道をテクテクと。それにしても腹が減った。宿ではどのような夕食が出るのか、一泊2食付7,000円ほどゆえ、豪華とも腹いっぱい動けないっというのとも縁がないだろう。この地域一帯(東洋町)はポンカンとサーフィンの町という看板が大きく出されているところからすれば、もう、サーファーとかいうナンパ波乗り野郎は活動中のはずである。つまり、「季節」なのである。「季節」にこの値段は安い。食事を押さえているに違いない。あれこれと、まだ見ぬホテルの客あしらいを妄想し、夕食前に腹をある程度満たしておきたいという欲望を持ちながら、田んぼの中をテクテクテクテク……。わびしいなあ。

・・・ んっ!!!! 発見!

海に流れ出る河内川の川原にケモノの足跡。大きいなあ。人の足跡の薄さとケモノの足跡の濃さとが不可解な思いを抱かせる。それほどに重量級なのか、ケモノは。

注:この足跡の謎はついぞ解けなかった。翌

日、所用先の中学校長に尋ねたら、土佐犬ではないが大型犬を飼っている人がいる、その犬の足跡だろうか、という。宿のマスターは、いやー、飼い犬でそれほど大きなものはいませんねー。「観光物産センター」のおばさんは、野生のケモノはこのあたりにはおりやせんぜ。気になる気になる気になる足跡。



河内川は国道 55 号と交差している。この道は、懐かしい。いや、昨年この時期、ここよりさらに南、室戸岬のほうに進んだ佐喜浜というところに行ったのだが、嵐に見舞われ、高松空港よりタクシーで、ゴー！ゴー！ゴー！、とすっ飛ばしたところである。

・・えっと、なんだかんだと気を逸らしているつもりであっても、空腹感はさらに増すのであった。

「観光物産センター」と看板にあるので覗いた。野菜が売られていた。後はふりかけ、サラダオイル、深海水、干し魚・・・これは観光物産ではないズラ。日常品ズラ。なら、パンがあってもよいズラ。ん？・・・あ、饅頭だ。「天皇陛下献上 野根まんじゅう」。観光物産だがや。オラは今、日常物産の即席口中収納カミカミ食品がほしいんだがノウ・・・

バカ正直に、店のおばさんに、空腹故この饅頭を余は食す心算なり、と申告しながら購入。おばさん答えて曰く、「天皇陛下に献上するほどに由緒正しきこの地の銘菓なり。されば、立ち食いなど許されぬ、座して、心静かに味わうべし。」と。「ならば、さ、しもうそ。が、こと、ここにいたりては礼儀作法など言っておられぬあんばいではある。何か、



他に、口にする値う品なきや。」「ここなる芋けんぴはいかなりや。」「ウム、よかろう。」

最後は、もう、無礼講な会話となってしまっているけれど、とにかく、これで、宿までの道、テクテクを、ポリポリポリポリという実際音を供にすることができるようになった次第である。

向こうに見える白い建物、あれこそ、「つぶれ

ていたんですけど、この 6 月から再開したホテルなんですが、それしかないので、ご勘弁ください。」と、当地で教育実習する学生からご案内いただいた、我が宿である。

宿に着いたのが 4 時 45 分。駅を降り立って 40 分以上が経っていた。芋けんぴではどうにも腹が落ち着かない、献上饅頭を半箱ほど食する。

やはり、だめ。「白浜海岸」を散策しよう！夕食までは牛の垂涎状態を保つしかない。

第三幕

散歩中の心内言語の幾つかを。

ゴミ一つ落ちてないよー。

ここは阿波白浜なのか土佐白浜なのか ほとんど阿波だよなー。

房総の白浜、南紀の白浜、日本全国いろいろ白浜っとー。

風が作る砂の紋、波が作る砂の紋。自然のアール・ヌーボーだー。

これはカメラにおさめずしておらりょうか。

パチ パチ パチ パチ パチ . . .

. . . ハラヘッターー。。





汽水域

終 幕

所用は翌朝、無事済ませた。職場からの厳命で一切の立ち寄り禁止故、あのテクテクテクテク道を戻り、あの駅売りも車内販売もない路線をノooooooooンビリと戻り、リムジンバスで飛行場に行き着き、2時間余をもてあまし、。。。。。。。。。

帰宅してからことの顛末を家族に語り聞かせたら、「今度から、旅行に行く時には、食べ物と飲み物とを持って家を出なくっちゃね、お父さん。」と、娘にやさしく笑われたのである。その傍らで細君は、ただただ寵愛ネコ・グレーを膝に乗せ、例の口端を少し歪めた笑顔を見せながら、背をさすっているだけであった。

。。。。。。